

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	スズケン名南物流センター	階数	地上3F
建設地	大府市共和町	構造	S造
用途地域	市街化調整区域	平均居住人員	360 人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	3,650 時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2015年8月 予定	評価の実施日	2014年4月25日
敷地面積	33,960.09 m ²	作成者	奥井康史
建築面積	10,251.77 m ²	確認日	2014年4月25日
延床面積	26,843.51 m ²	確認者	奥井康史

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.7 ★★★★★☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

(kg-CO₂/年・m²)

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア = 3.3

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.4

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.9

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.7

LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.6

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.7

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 4.0

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">3.4</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">2.0</p> <table border="1"> <tr> <td>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</td> <td>20.0 %</td> </tr> <tr> <td>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</td> <td>0.0 %</td> </tr> </table>	外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	20.0 %	建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %
外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	20.0 %				
建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %				
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">4.1</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <p><外装材に使用した地域性のある材料></p> <p>なし</p> <p><建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材></p> <p>なし</p>				

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性
LR-2 2 非再生性資源の使用削減

③敷地内の緑化
Q-3 1 生物環境の保全と創出
④地域材の活用
Q-3 2 まちなみ・景観の配慮 4) 地域性のある素材による良好な景観形成

外構緑化指数 = $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積} (\text{建築面積} \text{及び} \text{附属物面積})}$ × 100

建物緑化指数 = $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積} (\text{法定面積})}$ × 100

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	果独自基準	重点項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質								3.3
Q1 室内環境								3.4
1 音環境				3.2	0.15	-	-	3.2
1.1 騒音				3.0	0.40	-	-	
1 室内騒音レベル				3.0	1.00	3.0	-	
2 設備騒音対策				-	-	-	-	
1.2 遮音				3.0	0.40	-	-	
1 開口部遮音性能				3.0	0.60	3.0	-	
2 界壁遮音性能				3.0	0.40	3.0	-	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)				3.0	-	3.0	-	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)				3.0	-	3.0	-	
1.3 吸音				4.0	0.20	3.0	-	
床、天井で吸音材料を使用								
2 温熱環境				3.2	0.35	-	-	3.2
2.1 室温制御				3.5	0.50	-	-	
1 室温				3.0	0.38	3.0	-	
2 負荷変動・遅延制御性				-	-	-	-	
3 外皮性能				5.0	0.25	3.0	-	
4 ゾーン別制御性				3.0	0.38	-	-	
5 温度・湿度制御				-	-	-	-	
6 個別制御				-	-	-	-	
7 時間外空調に対する配慮				-	-	-	-	
8 監視システム				-	-	-	-	
2.2 湿度制御				3.0	0.20	3.0	-	
2.3 空調方式				3.0	0.30	3.0	-	
3 光・視環境				3.3	0.25	-	-	3.3
3.1 昼光利用				3.0	0.30	-	-	
1 昼光率				3.0	0.60	3.0	-	
2 方位別開口				-	-	3.0	-	
3 昼光利用設備				3.0	0.40	3.0	-	
3.2 グレア対策				4.0	0.30	-	-	
1 照明器具のグレア				-	-	-	-	
2 昼光制御				4.0	1.00	3.0	-	
3 織り込み対策				-	-	-	-	
3.3 照度				3.0	0.15	3.0	-	
3.4 照明制御				3.0	0.25	3.0	-	
ブラインドを設置+庇								
4 空気環境				4.0	0.25	-	-	4.0
4.1 発生源対策				5.0	0.50	-	-	
1 化学汚染物質				5.0	1.00	3.0	-	
2 アスベスト対策				-	-	-	-	
3 タニカヒ等				-	-	-	-	
4 レンジオネラ対策				-	-	-	-	
4.2 換気				3.0	0.30	-	-	
1 換気量				3.0	0.33	3.0	-	
2 自然換気性能				3.0	0.33	3.0	-	
3 取り入れ外気への配慮				3.0	0.33	3.0	-	
4 結露計画				-	-	-	-	
4.3 運用管理				3.0	0.20	-	-	
1 CO ₂ の監視				3.0	0.50	-	-	
2 喫煙の制御				3.0	0.50	-	-	
ほぼ全てF☆☆☆☆								
Q2 サービス性能				-	0.30	-	-	3.9
1 機能性				3.8	0.40	-	-	3.8
1.1 機能性・使いやすさ				3.6	0.40	-	-	
1 広さ・収納性				5.0	0.33	3.0	-	
2 高度情報通信設備対応				3.0	0.33	3.0	-	
3 バリアフリー計画				3.0	0.33	-	-	
1.2 心理性・快適性				3.3	0.30	-	-	
1 広さ感・景観				3.0	0.33	3.0	-	
2 リフレッシュスペース				3.0	0.33	-	-	
3 内装計画				4.0	0.33	-	-	
1.3 維持管理				4.5	0.30	-	-	
1 維持管理に配慮した設計				5.0	0.50	-	-	
2 維持管理用機能の確保				4.0	0.50	-	-	
3 衛生管理業務				-	-	-	-	
1人あたりのスペースが12㎡以上								
照明計画と内装計画が一体化								
段差が無い、害鳥対策など								
十分なスペース、容易な操作など								
2 耐用性・信頼性				3.5	0.31	-	-	3.5
2.1 耐震・免震				3.4	0.48	-	-	
1 耐震性				3.0	0.80	-	-	
2 免震・制振性能				5.0	0.20	-	-	
2.2 部品・部材の耐用年数				3.3	0.33	-	-	
1 躯体材料の耐用年数				3.0	0.23	-	-	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔				3.0	0.23	-	-	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔				3.0	0.09	-	-	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔				3.0	0.08	-	-	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔				5.0	0.15	-	-	
6 主要設備機器の更新必要間隔				3.0	0.23	-	-	
B以上を使用								

2.4 信頼性				4.6	0.19			
1	空調・換気設備			5.0	0.20			
2	給排水・衛生設備			4.0	0.20			
3	電気設備		②	5.0	0.20			
4	機械・配管支持方法			4.0	0.20			
5	通信・情報設備			5.0	0.20			
3 対応性・更新性				4.6	0.29			4.6
3.1 空間のゆとり				5.0	0.31			
1	階高のゆとり			5.0	0.60	3.0		
2	空間の形状・自由さ			5.0	0.40	3.0		
3.2 荷重のゆとり				5.0	0.31	3.0		
3.3 設備の更新性				4.0	0.38			
1	空調配管の更新性		②	3.0	0.17			
2	給排水管の更新性			4.0	0.17			
3	電気配線の更新性			5.0	0.11			
4	通信配線の更新性			5.0	0.11			
5	設備機器の更新性			5.0	0.22			
6	バックアップスペース			3.0	0.22			
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.40	-	-	2.7
1 生物環境の保全と創出		●	③	2.0	0.30	-	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮		●	④	3.0	0.40	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮				3.0	0.30	-	-	3.0
3.1	地域性への配慮、快適性の向上	●	④	3.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上			3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性				-	-	-	-	3.6
LR1 エネルギー				-	0.40	-	-	3.7
1 建物の熱負荷抑制				-	-	-	-	-
2 自然エネルギー利用				3.0	0.29	-	-	3.0
2.1	自然エネルギーの直接利用			3.0	0.50	-	-	
2.2	自然エネルギーの変換利用			3.0	0.50	-	-	
3 設備システムの高効率化				4.8	0.43	-	-	4.8
集合住宅以外の評価(ERRIによる評価)				4.8				
集合住宅の評価								
4 効率的運用				3.0	0.29	-	-	3.0
4.1	モニタリング			3.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制			3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル				-	0.30	-	-	4.0
1 水資源保護				3.4	0.15	-	-	3.4
1.1	節水			4.0	0.40	-	-	
1.2	雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無			3.0	0.67	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.33	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減				4.3	0.63	-	-	4.3
2.1	材料使用量の削減			3.0	0.07	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.25	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用			5.0	0.21	-	-	
2.4	非構造材料におけるリサイクル材の使用	●	②	5.0	0.21	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材			-	-	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組	●		5.0	0.25	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避				3.6	0.22	-	-	3.6
3.1	有害物質を含まない材料の使用			5.0	0.32	-	-	
3.2	フロン・ハロンの回避			3.0	0.68	-	-	
1	消火剤			-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)			3.0	0.50	-	-	
3	冷媒			3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境				-	0.30	-	-	3.2
1 地球温暖化への配慮			①	3.4	0.33	-	-	3.4
2 地域環境への配慮				3.6	0.33	-	-	3.6
2.1	大気汚染防止			5.0	0.25	-	-	
2.2	温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制				3.5	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減	●		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	●		5.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮				2.7	0.33	-	-	2.7
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40	-	-	
1	騒音	●		3.0	0.33	-	-	
2	振動	●		3.0	0.33	-	-	
3	悪臭			3.0	0.33	-	-	
3.2 風害・砂塵、日照阻害の抑制				1.9	0.40	-	-	
1	風害の抑制			1.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制			3.0	-	-	-	
3	日照阻害の抑制			4.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制				3.7	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうらみに漏れる光への対策			4.0	0.70	-	-	
2	屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	-	-	

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
① 地球温暖化対策				3.4
LR3-1	地球温暖化への配慮	3.4	0.10	
② 資源の有効活用				4.1
Q2-2	耐震性・信頼性	3.5	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	4.6	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	4.3	0.19	
③ 敷地内の緑化				2.0
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.12	
④ 地域材の活用				1.0
		(評価ポイント)		
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= $\frac{\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}}{\text{重みの総和}}$

④地域材の活用

計画上の配慮事項	
総合	注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。 医薬品の物流倉庫として特に温湿度環境に配慮している。免震構造、発電機設置など十分な災害時の対策。リサイクル材の積極的な利用による環境配慮。
Q1 室内環境	注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 事務所には自然採光が充分に入るよう配慮している。床、天井による吸音。ほぼ全てF☆☆☆☆。
Q2 サービス性能	注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 免震構造。一人当たりあたりの面積が広い快適な執務スペース。災害時の対策のため発電機を設置。
Q3 室外環境(敷地内)	注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 植栽帯(緑化率20%)を設けている。空地率60%以上。
LR1 エネルギー	注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 執務スペースには大きな窓を設け、採光・通風に配慮している。
LR2 資源・マテリアル	注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 ほぼ全てF☆☆☆☆。構造部材、仕上材にリサイクル材を活用。
LR3 敷地外環境	注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 駐輪場、駐車場が必要台数分確保されている。近隣に対し日影、広告照明等の影響が小さい。
その他	注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。